令和８年度秋のキャンパスビジット実施報告書

文責　実行委員長　医学科３年　富田貴英

1. はじめに

令和８年 11 月８日(日)、令和８年度秋のキャンパスビジットを開催いたしました。40 名の高校生を想定していましたが、想像を超える数の応募があり初めて参加する高校生を優先して参加していただきました。高校１年生から予備校生まで、そして県内外各地からはるばるお越しいただきました。

本イベント「キャンパスビジット」は、長崎大学医学部医学科への進学を志望していたり興味を持っていたりする高校生・予備校生を対象とした特別なイベントです。有志学生による実行委員会が中心となって企画・運営を行い、学生の視点から本学医学科の実態と魅力をより身近に伝えることを目的としており、毎年夏に大学が開催するオープンキャンパスとは一線を画しています。今回も、講話や体験授業、実習機器の体験などを通して本学医学部を目指す参加者のモチベーションアップにつながることができるよう準備を進めてきました。



2. 当日の様子

開会に際し、本キャンパスビジット実行委員会の顧問をしていただいている泉川先生よりご挨拶を頂戴しました。

1時間目として、田﨑修先生(長崎大学病院高度救命救急センター教授)をお迎えし、ご講演いただきました。

2時間目として、学生企画を行いました。前半は1名の学生に講話をしてもらいました。後半は、本学医学科の授業でもよく取り入れられている TBL 授業を実践しました。

昼休憩では、参加者と実行委員が楽しく会話を交えながら昼食をとりました。

午後はキャンパスウォークを行い、大学内の各施設を案内しました。

その後、シミュレーション機器を用いて実習体験を行いました。3ブースに分かれ、計6つのシミュレーターを体験してもらいました。

閉会後は放課後座談会を行いました。勉強や受験の相談を中心に、多くの方が話をしている場面が見られました。



泉川先生のご挨拶

3. 各プログラムについて

(1) 先生講話

長崎大学病院高度救命救急センター教授の田﨑修先生をお招きし、「長崎大学病院の紹介~高度救命救急センターを中心に~」という題目でお話しいただきました。講演ではご自身が医師を志した経緯から救急医に進んだ理由などを幼少時代から順を追ってお話していただきました。また、高度救命救急セン

ターの業務や大学病院での高度救命救急センターの役割、他の科との連携の重要性や災害時における救急医の活躍など具体的な医師の働き方をお話していただきました。医学部を志したばかりの高校生や医師を志すことにまだ迷いがある高校生にとっては将来の姿を想像しやすくなるとても刺激的な講演であったと思います。講演後には熱心な参加者による質問が多数寄せられました。



田﨑先生のご講演

(2) 学生講話

1年の松尾に講話をしてもらいました。松尾からは自身の受験勉強を中心にお話をしてくれました。使っていた参考書から効率的な勉強法、逆に失敗した勉強法など自身の経験から高校生に伝えたいことを話してくれました。多くのアドバイスを熱心にメモに取る参加者が多くいました。実際の学生生活をたくさん話してもらい、参加者にとって、入学後のイメージができたとともに受験のモチベーションアップにつながったと思います。



松尾さんの講演

(3) キャンパスウォーク

大学の生協や図書館、基礎棟や BSL4 の施設などを周り、説明を交えながら紹介しました。大学生活がどんなものかや長崎大学の特徴、魅力について伝えることが出来たかと思います。




キャンパスウォークの様子

(4) TBL

TBL(Team-Based Learning)は、医学部の授業で多く取り入れられている少人数でのグループ課題解決学習です。今回は、糖尿病の患者さんと骨粗鬆症の患者さんの事例をもとにそれぞれ本人が目標とする暮らしをどのように支えるかというテーマで行いました。事例に書かれた様々な情報から、その方の強みや弱みを考えてチームで整理していくとともに、その方が希望する生活の実現のためにはどのような支援サービスや職種が必要なのか話し合いを行いました。参加者は初めての TBL で、お互い初対面にも関わらず、どの班も熱心で活発的な話し合いが行われ、様々な視点から面白い意見を聞くことができました。当初はそれぞれのグループに大学生が付き、話し合いをお手伝いするという予定でしたが、異なる高校の生徒同士がまずは自己紹介から行い、話し合いが進むようにまとめ役を担う生徒が現れ、お互いに意見を尋ねあったり意見をまとめながらグループの意見を出し大学生の力を借りずとも高校生のみでグループワークを行うことが出来ていました。最後には班同士で発表し合いました。この学習を通して、多職種や社会資源を活用しながら本人の希望を実現する視点について学んで頂くことができたと思います。




TBL の様子

(5) 実習

毎回一番人気である実習企画を今回も実施しました。血圧測定、呼吸音、腹腔鏡、結紮、胸骨圧迫、気管挿管の計６種類のシミュレーターを用意しました。難しい内容や操作もありましたが、参加者が取り組みやすく楽しんでもらえるように、実行委員が事前に準備と練習を重ね、企画内容にも工夫を施しました。また、時間を十分に確保し一人一人がしっかりと体験できるように努めました。例年はすべての実習を経験してもらっていたのですが、一つ一つの実習時間が短く慌ただしくなってしまうとの意見から今回は事前に応募の時点で希望の実習先を二つ聞き、長い時間しっかりと経験できるように変更しました。自身の希望する実習のため例年にも増して興味を持ち熱心な生徒が多かったように感じました。シミュレーターに触れられる機会は滅多にないため、多くの参加者が熱心に体験に取り組んでいました。私たち実行委員にとっても大変貴重な体験でした。シミュレーター体験を通して皆さんが大学生や他校の生徒と楽しく交流できており、最後まで大盛況でした。そして参加者の皆様のアンケート内で、実習がとても良かった、楽しかったという声を非常に多くいただきました。この実習体験は本キャンパスビジットの大きな特徴の一つでもあるので、今後もより充実した企画となるよう試行錯誤を重ねていきたいです。



腹腔鏡の様子



気管挿管の様子

(6) 放課後座談会

自由参加として開催しましたが、多くの方が閉会後も残り、勉強面での悩みや相談を中心にたくさん話してくれました。実行委員側も、最大限のアドバイスを情熱的に話してくれました。一時間以上話しているところもあり、志の高い方がたくさんいて大変うれしく感じました。

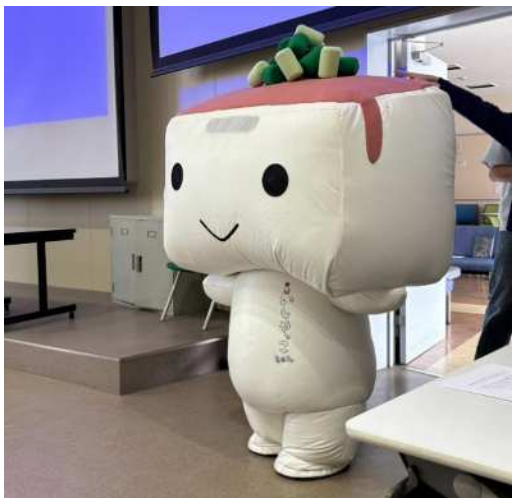
4. さいごに

過去の回で良かった点や改善点を踏まえて、企画の検討を重ねてきました。話を聞くだけでなく直接的な体験を増やすこと、各プログラム(特に実習)の時間を十分に確保することを課題としてきましたが、今回かなり改善できたように思います。そして計画・準備から本番当日も含めて、とても順調にスケジュールを進めていくことができました。これらは、キャンパスビジット顧問である泉川先生、毎回実習に協力していただいている長崎大学病院シミュレーションセンターの中山副部門長、ご講演いただいた田﨑先生、医学部総務課の藤岡さん、中尾さん、キャンパスビジットの取り組みにご理解いただき予算など多大なご支援・ご協力を頂いている大学関係者の皆様、共に企画運営に尽力してくれる実行委員の皆さんなど、多くの方々のご協力のおかげです。心より厚く感謝申し上げます。

一日を通して一番印象に残っているのは、参加者の皆さんが他校の学生と友達になり仲良くしている姿が多く見られたことです。大学生との交流だけでなく、参加者同士の交流も非常に刺激的であることに今回気づくことができました。このキャンパスビジットで出会った他校の仲間と、数年後に長崎大学医学部医学科に合格し再会できることを祈っております。またその際には、一緒にキャンパスビジットを作り上げる私たちの仲間にもなってくれることを切に願っています。

最後に、このキャンパスビジットは今年で 11 年目を迎え、計 18 回開催されてきました。学生が主体となる本学キャンパスビジットは、他にはない素晴らしい取り組みです。

皆様のお力添えがあり、無事に第 18 回キャンパスビジットを盛会のうちに終えることができました。次回以降もより良いものとなるよう改善を重ねてまいります。引き続き何卒よろしくお願いいたします。





参加者に大人気のマスコットキャラクター：いしやっこちゃん